

〔Ⅱ〕 公民的分野における個人指導の試み

川 田 基 生

1. はじめに

中等教育の期間に、生徒は社会科学の領域について、何を、どんな方法で学ぶべきだろうか。「世の中の裏面を知ることが何よりも社会科の意義」「それは生きるための知識です」「中学生は教科書で基礎をやればいいのです。」といった生徒の意見を検討しながら考えをまとめてみたい。

2. 《公民的分野で何を学べはいいと思いますか》

社会科とは生きるための知識ということになるのではないか。そういう意味で公民の授業を考えると、もっと具体性が欲しい。商業学校になってしまうかもしれないが、お金のことについて、もっと身近な例を知りたい。社会というからには表も裏も教えていただきたい。……そういう意味で銀行を通じた私企業の資金の流れを考えることは非常に大切であると思う。 中3当時C男 ①

C君の「生きるための知識」というのは、かなり普遍性を持つ意見かと思われるが、「具体性」ということはどうだろうか。後に出てくるEさんと私の問答で、Eさんは「個々の意味だけではつながりがよくわかりません」と言っている。具体的ななかにも人間の内面の大切なことと社会全体の動きにかかわる一般性が見えかくれる必要がある。

チェーホフの戯曲「桜の園」の幕切れに、桜の木を切る斧の音が遠くから聞こえてくるというのがあります。広い貴族の領地を農奴あがりの成金が買い取り、桜の木を切り倒している。斧の音にある時代の終末が…といった具体性であれば、私もC君の意見に賛成したい。

そして具体性、と言ったC君が、むしろ抽象的な資金循環分析へ向った方向は正しいように思う。人間たちがどんなに善意であってもどうしようもない、「金がかたき世の中…」ももっと勉強して、貨幣のベールの向うの、資本主義社会の物質性の理解に進んでほしい。そのあたりを一応の終点と私は考えているのだが、中等教育ではそこまではなかなかいかない。

言い古されたことかもしれませんが、そしてそれは抗し難い受験体制の必然かもしれませんが、私は、生徒の頭に知識を詰めこむことに疑問を感じます。ただ

の切り離された知識として中学3年の公民的分野と、高校3年の政治経済の内容は非常に似ている。ちがいがあるとすれば、生徒が一つ一つの事柄をどう意味づけてゆくのか、相互の関係をどうとらえてゆくのかという判断によるちがいはないだろうか。私は生徒の中で育てゆく判断力を、少しでも良いものにするために手を貸していくことを指導の重点の一つとしてゆきたい。

その判断力の内容は、中学の段階では、社会問題への目ざめ、個々の事件についての感性的、個別的な理解を重要視したい。たとえば

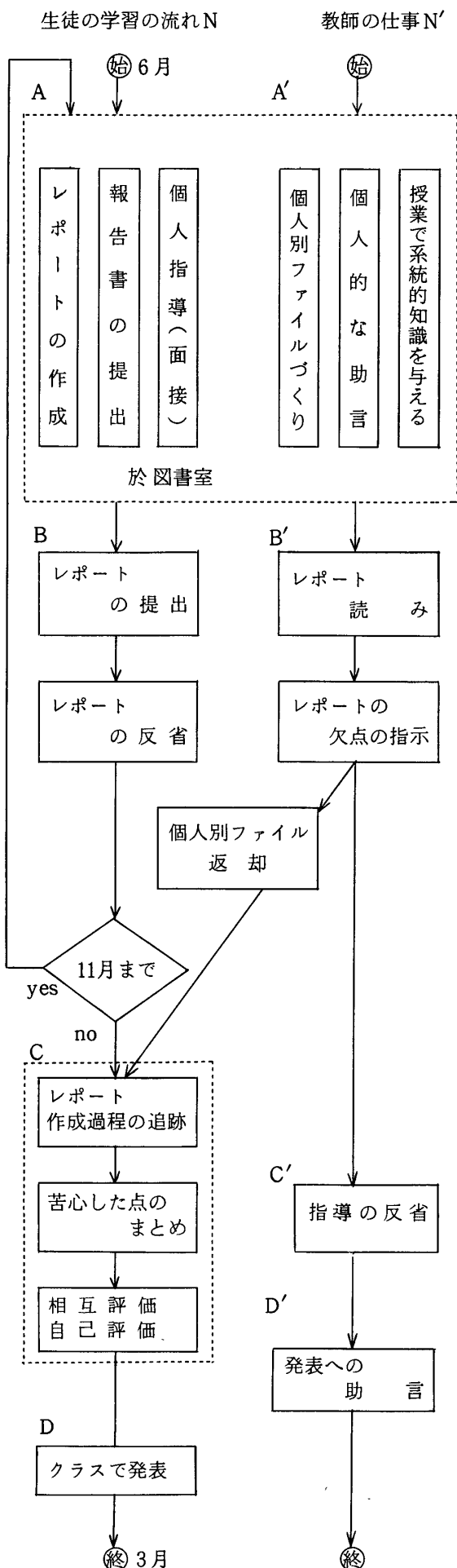
…しかしその会社は自分の工場の廃液が原因と知っていても絶対にちがうという。会社側は、発病した子供や老人がかわいそうじゃないのか？なぜ自分の利益を優先するのか！なんでもばい償金でかたづけられればいいと思って…。 中3当時A女 ②

具体的な社会問題について「熊本県がやったことといえば…」というような批判的な意識をもってくれればいい。高校ではもう少し概念化されたものがほしい。同じ生徒は高校2年の時、

…今度初めて哲学の本を一冊読んだ。借りた時は本の一冊ぐらくすぐに読めると思ったが、なかなか前に進まず大変こまった。普通の小説にくらべて頭で考えながら読まなければならないからだろう。 高2当時A女 ③

論理的なものの考え方に意欲を感じる年ごろと云っていいのだろうか。

春闘について。人間、春闘なんかやるもんじゃない。賃金があがれば、そのぶん物価もあがるのです。賃金の伸びより物価の伸びのほうがはるかに大きいのです。労働者は自分で自分の首をしめている。……春闘で会社がつぶればもともともないんだゾ！失業者がふえると税金がふえるんだゾ！ 高3現在B男 ④



10分ぐらいで急いで書かせた文で、また、その日は都市交通の早朝ストがあったためか、少し乱暴な議論ではあるが、社会構成体の諸因子の相互関係への着目、このあたりを高校政治経済分野の目標の水準としたい。

①～⑩と見てみると、中学から高校へ、この教科にかかわる認識は、明らかに画一的な、教師がしゃべって終る形の指導ではとらえきれない個性化がはじまるように思われる。政治経済についての信念は、一人一人ちがうものを持つことになるとすれば、指導もそれを十分に育てる形のものにしてゆきたい。

3. 授業の流れ

左の流れ図風のものを見て下さい。これにそって説明します。

中学3年公民的分野、週四時間のうち一時間をレポート製作にあて、質問に答えたり、一対一で面接をしたりしてすごし、最後に発表をやらせた。

A A'。たまに出るレポート、毎週出させる報告書、題を決めて全員に書かせる作文などを個人別に全員についてファイルをつくり、3ヶ月分ほどを通して読んで、質問、助言を用意し、生徒を一人一人呼んでレポートについて話させた。それは、個々の生徒の環境や知能を知るといふより、むしろ、その生徒がどんなテーマを好み、どんなまなざしで、どんな声の調子で、どんな笑い方をする性格なのか、といったあたりを知ることが試みたものであった。

しかし、よく知ることは、そのままいい指導、助言とつながるわけではなかった。それでは、生徒はどんな問題解決をし、勉強の進め方を総括していったのか、教師の助言はどのようにおこなわれたのかを次に述べたい。

指導なり反省なりの必要な時期は、生徒の勉強がすすみ、ある程度熟してきた、質的な転換期であるべきで、それは学期や学年の長さとは別のもので、大きく分ければ、②→③の段階と言えると考える。

左のC C'について説明します。

まず、生徒は自分自身で学習の総括をしてゆく、ということについて。以下私の質問は《》で示します。

《あなたのレポートとその周辺の勉強の良い点、悪い点を述べなさい。百点満点で採点しましょう。》

良い点はあまりに少ない。しいてあげれば、できるだけ範囲の広い勉強をしているつもりであるということであろうか。悪い点、勉強しない日がほとんどで、せっぱつまってからでない勉強しない。30点。 中3当時C男 ⑤

この自己評価をどう見るべきだろうか。本人によるレポート作成の記録を見てみよう。

《報告書をまとめてみよう》

6月?日 世論形成の問題点 マスコミによる…
 7月4日 労働組合の歴史 戦後労働組合法…
 7月?日 資本主義社会の労働問題 労働者は…
 7月16日 争議権について 国家公務員の人に…
 9月2日 金融資本論 経済の傾向を理解する…
 9月19日 管理通貨制 1930年代の恐慌時、価…
 10月13日 信用創造について ある銀行に10万…
 10月24日 貿易について 国内需要が増加する…
 11月21日 利子率の騰貴を防ぐため貨幣量を増…
 中3当時C男 ⑥

できるだけ広く勉強したという本人の反省。この範囲でどの程度まで理解したのだろうか。

マスコミの世論操作や、労働組合運動について、具体的な事例を調べた後、信用創造など勉強しているあとかうかがわれておもしろい。次に、自分で⑥で言った目的と、レポートの内容は対応しているのだろうか。

銀行に個人がお金を預けに行くのは、まず安全であるということがあげられる。小さな事故ぐらいなら銀行内部で処理できるし、国の援助もある。しかし銀行などという業務が、こんなに大手を振って存在してよいのであろうか。銀行自体はまったくなくとも生産しない。確かにお金と商品の流れは敏速におこなわれ、経済成長には不可欠の役割をしている。そういうことを銀行という業務としてでなく公営にするわけにはいかないのではあろうか。
 中3当時C男 ⑦

①で述べている目的とレポートの内容との対応、そして一応自分の意見になっていること、それが⑥の期間の様々な視点の学習を反映して社会科として豊かな発想をしていること、参考文献中に教科書(中学高校両方)も含まれていて基礎的事項の理解に努めていることなどから、この生徒はいい勉強をしたのではないかと思うのだが、自分では気づいていないらしい。

広い視野で、社会問題を人間の内面とかかわるところまで考えた生徒、何かいいものをつかみかけている生徒は概して厳しい自己採点をするようだ。

自分の勉強を静かに厳しく反省してゆくことは、今見たところでは最良の方法の一つと考えられる。

「みずからすべてを悟るひと、かれこそは最善のひと、良く語るひとの言葉に聴き従うひと、かれもまた立派な人」
 ヘシオドス「仕事の日々」

次に生徒どうしレポートの読みあわせをさせて、批評をしあった。

《他の人のレポートを読んで長所短所を論評しなさい。百点満点で何点になりますか。》

C男→D男 98点 長所、できないまでも英語を駆使して原文を写したこと。今の憲法が成立するまでの歴史的背景を知ろうとした、その着眼点。短所は自分の意見に少々欠けていること。 ⑧

D男は6月から10月まで一貫して、憲法九条について勉強し、参考文献は丸山真男の著書一冊だけであった。内容は憲法の制定過程から自衛隊の問題を考えるというもの。

生徒相互の批評は暖かいものであるとともに、するどい一面を持つ。

とは言え、客観的な妥当性に乏しい二人だけの真実ではこまる。それを補うものとして、多くの生徒の批判を待つ発表か、教師の助言が必要であろう。

次に一対一の面接について述べたい。ここで引用するのは中3当時のEである。彼女は公民的分野では、教科書で基礎を勉強すればいいと言っていた。そこでレポートも教科書の「基礎」をまとめてみてはどうかと勧めていた。ところが面接の何回か前の報告書を見ると、証券市場について難しい本を読みはじめていた。その変化の理由と、女子には珍しい証券市場への興味について質問してみた。

E「証券市場について教えて下さい。」

中3の生徒の質問は感情はこもっていても、このように漠然として答えようがないものが多い。

私「証券市場について何が知りたいのですか。」

E「株の話が出たときに、どうやって株が人手に渡るとか父に聞きました。…むつかしく、深いところまで話してくれません。…そのためこの時間を利用して株の流れを調べたかったのです。辞書をひきましたが、個々の意味だけでつながりがよくわかりません。」 ⑨

この生徒は松本清張の推理小説が好きで、事件と関係のある株に興味を持ったというわけです。

私「証券についての「基礎」とは、教科書で言うようなどんなことになると思われますか。」

E「会社を設立する際に、経営する側は、設立に要する資金を調達します。そこで、その手だてとして株というものを発行します。これが株券です。それは会社に投資したわけですから、調達したもののうちのその人の投資した割合で、配当がつくわけです。国が歳入不足をおぎなったり、特別事

業をおこなうために民間から資金をかりる公債、企業の社債、これらをまとめて証券といいます。それは経営状況によって左右されます。私の思う基礎というのは、その事柄を学ぶうちで、これだけは知っておかなければならないことです。考え方によっては、教科書全体が基礎といえると思います。」⑩

証券会社の社員に渡された新聞紙に包まれた札束、中年の男のうすぎたない金銭欲、事件の進行は株価の異常な値動きから意外な展開を。

株って何だろう。株と経営状態。事件の前日、なぜ被害者は重役に会いに行ったのだろう。景気が悪くてどんなことだろう。その日の新聞、公定歩合。

金利政策をめぐる経済的な諸要因の相互関係、それを中学生の熱い関心で追ってゆき、「教科書全体が基礎」という考えを持つ。この考えが、私のやり方に確信を持って反対していた生徒の口から出てきたのは収穫であった、としたい。

レポート提出の後、面接があるということと、面接する教師は報告書、作文を何ヶ月分か読んでいるということ、これは生徒にとって大いに励みになったはずだ。

次に、みんなの前で発表することによって自分の考えを見直してゆくDDについて説明したい。

生徒たちが中3だったころは、ちょうどロッキード疑獄が報道されはじめたころで、全日空や丸紅の社長、重役が「記憶にありません」をくりかえしているのを、発表だ、などと言って、テープでくり返しくり返し「記憶にありません」を流し、みんなで笑ったのを記憶している。ここでは、高校2年での倫理社会の発表についてふれてみたい。

最初は「発表なんかやったって…」という気がしていたけれど、今思うと、いろいろな題材について、他人の意見を聞き、自分も考えること、自分の考えを他人に訴えかけることは有意義であったように思う。実際私はこのごろとても多くの事について考える時間を持つようになったし、それ

によってやっと自分の考えというものが自分でわかってきた。そしておかしな事だけど、だんだん自分の考えに妙な自信を持ってしまったり…。なにしろ考えることがとても好きになった。残念だったのは、私以上に不真似目な発表をした人が時にあったこと。わけのわからないことを早口でベラベラしゃべって終わってしまう人。………言いたいことはいっぱいあったのだけれども、中途半端に終わってしまったのがとても残念。…結局つまらない例だけですんでしまったりして…。多くの女の子がそうであった様になるまいと思いつつも、自分が人前でしゃべるのはすこぶるヘタでぶざまな発表になってしまった。………多くの人が、私のとりあげた問題について考えてくれたのはとてもうれしかったです。高2当時F女 ⑪

4. 終りに

こういう授業の成果として、第一に、教師にとって生徒の感じ方、考え方がよく理解できること、第二に生徒に、考え、質問し、話し合い、発表する機会を与えることができること、第三に、好きな問題を取りあげ、自分なりの結論が持てること、あるいは解決不能の大問題とつきあえること、この3つをあげたい。対友人、対教師の緊張の中で考え進む機会を与えることに若干の意義があったように思われる。

問題点としては、受験体制下の社会科の知識のあり方と異質のものを求める上での困難があげられる。受験的な知識判断の体系を批判するのは比較的やさしいのだがそれに代わるもの、生徒と父母の良識にうったえることのできるものとなると、簡単にはゆかない。

ただ、その目標は、「陋巷の汚穢と凋萎した生活の陰鬱に憤る社会的熱情」を生徒と共にすることであり、その方法として、受験参考書というよりは、静かに読書したり、作文を重ねたり、友人と話しあい、教師と討論し、発表する努力をすることの方がより良い道ではないか、と思うのです。